

新総合計画策定市民参画事業

フィールドワーク型

ワークショップ

まち歩き フィールドCafé

市民力を考えよう

— 平成22年8月・9月実施 —

活動報告書

目次

実施概要	1
フィールドワーク概要	2
●フィールドでの足取りの視点から	
あかねグループ	3・4
TRUNK	5・6
壱式参横丁	7・8
せんだいメディアテーク	9・10
●グループの足取りの視点から	
グループききょう	11・12
グループゼラニウム	13・14
グループぶどう	15・16
グループだいこん草	17・18
全体会概要	19・20
グループききょう	21・22
グループゼラニウム	23・24
グループぶどう	25・26
グループだいこん草	27・28
参加者の感想・講評・アンケート結果	29・30
活動の発表	31

仙台市

実施概要

仙台市では、市民の皆さんの意見を取り入れながら新しい総合計画づくりを進めるにあたり、実際にまちづくりに取り組んでいる方たちの活動の現場（フィールド）を見て、聞いて、みんなで話し合っ、市民の力が輝くまちづくりを考えていく「まち歩きフィールドCafé」を開催しました。

「まち歩きフィールドCafé」では、さまざまな世代の参加者同士がグループを組み、4つのフィールドを順に訪問し、各フィールドの可能性や課題の発見、今後に向けた企画などを話し合いました。

4つのフィールドを訪問後、仙台市市民活動サポートセンターで開催された全体会で、参加者自身が地域のためにできることを出し合い、市民の力が輝くまちづくりについて議論し、寸劇の形式でまちづくりへの参画を呼びかけるコマーシャルを作成しました。

プログラム

1日目 平成22年8月28日(土)

- 9:00 集合・受付
ガイドランス
- 9:45 フィールドへ出発
- 10:15 フィールド①
- 11:45 休憩（昼食）
- 13:00 フィールド②
- 15:00 フィールド③
- 17:00 市役所到着・解散

2日目 平成22年9月4日(土)

- 10:00 集合・出発
- 10:30 フィールド④
- 12:30 市民活動サポートセンター
到着・休憩（昼食）
- 13:15 全体会
- 17:00 解散

訪問フィールド あかねグループ TRUNK 壱式参横丁 せんだいメディアテーク

参加者の4グループ グループききょう グループセラニウム グループぶどう グループだいこん草

フィールドでの活動

- STEP1 30分 活動の実践者から説明を受けます。
 - STEP2 30分 活動の現場を見えます。
 - STEP3 30分 みんなで話し合います。
- STEP1 STEP2 をもとに、フィールドの可能性や課題の発見、今後に向けた企画を考えます。

フィールドワーク概要

参加者のグループは4つのフィールドを順に訪問し、各フィールドの魅力や課題の発見、今後へ向けた企画を考察していきました。

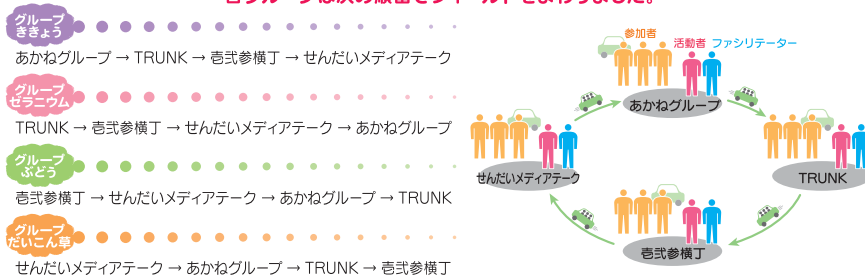
それぞれのフィールドは4つのグループの訪問を順々に受け入れていったことになります。

1番目及び2番目の訪問先では、そのフィールドで〈驚いたこと、初めて知ったこと、あったらいいと思ったこと〉などを出し合いました。3番目の訪問先では、先に訪問した2つのグループが出し合っていたことをつなぎ、フィールドをもっと魅力的にするためのアイデアづくりを行いました。そして最後の4番目の訪問先では、先に訪問した3つのグループによって積み重ねられた議論を踏まえ、フィールド活用のための企画を膨らませていきました。

これらの発見や考察は、いずれのフィールドにおいても、活動実践者の方からお話を聞き、活動現場を見学したことをもとに行われ、仙台市総合計画審議会の委員がファシリテーターとなって進められました。

この報告書は、フィールドに着目した観点と、各グループがたどった足取りに着目した観点の2つの視点からまとめられています。

各グループは次の順番でフィールドをまわりました。



ファシリテーター
紹介





フィールド あかねグループ

若林区遠見塚 1-5-35
【地域ネットワーク、福祉】

- 事業目的：地域で生きがいのある安心な暮らし・社会と関わりながら高齢になっても暮らすことのできる地域づくりの実現
- 運営主体：特定非営利活動法人あかねグループ
- 市民の関わり：スタッフ（有償ボランティア、雇用、無償ボランティア）として参画
- 行政の関わり：市民のボランティア活動を行政が活用、促進
- 活動概要：日々生活する地域において、住民が気軽に参加できるボランティアの場の提供を行う。また、高齢者が在宅で生きがいを持てる暮らしの実現のため、配食、介護、学習の場の提供やファミリーサポート事業活動も実施している。

ファシリテーター 1日目・2日目 増田 聡さん [東北大学教授]

STEP1・2 フィールドで聞く・見る

特定非営利活動法人あかねグループ理事長の武田美江子さんから、あかねグループの設立の経緯と28年間の歩みや現在の活動状況をご説明いただきました。

さらに、配食担当スタッフの清水福子さん、財務担当スタッフの伊藤美子さんに、活動の詳細や活動していく上での課題や問題点などの説明をいただきながら、厨房でのお弁当の調理の様子、ボランティアスタッフの方々による配達の模様、あかねサロンを見学しました。

なお、参加者の受け入れにあたっては、庶務担当スタッフの伊東仁子さんが中心となり準備してくれました。



STEP3 フィールドで話し合う

グループききょう

増田さんをファシリテーターとして、実践者からの活動の説明や見学を通して感じた〈感想や素晴らしいと思った点〉〈もっとこうしたらいいのではないかと〉という提案や疑問を付箋に書き出し発表しました。

考察結果

- ・自分の出来る範囲で活動するというスタイルが良いと思う。
- ・ただお弁当を配達するのではなく、配達先の高齢者の方の安否確認も併せて行っているところ。
- ・お弁当がかなり細かく個別対応できていること（材料の大きさなど）。
- ・平均年齢が62.3歳と高齢に感じたが、配達に出かける方や実際に活動している方々の姿は生き生きとして、年齢の問題ではないと感じた。
- ・孤独な高齢者の話し相手になってあげるのすごくいい事だと思います。
- ・「あかねグループのコミュニケーション力」配食、介護の基礎となるコミュニケーション力の強さが、あかねグループ内や地域の人の繋がりを強くしているのだと思いました。
- ・自分たちのできる事、したい事から始め「私たちが住みやすい地域づくり」という姿勢が素晴らしい、生きがいにもつながっていると感じた。
- ・それぞれの高齢者のニーズに合った内容に調理するのは、頭が下がる思いです。
- ・あかねグループって今まで知らなかった。特に配食の事業は大変ですね。聞いていて今後高齢化社会に向かって増々大変ですね！頑張ってください。

提案・疑問

- ・地域拡大を図るためには、別のグループとの連携が必要ではないか。
- ・（スタッフの）高齢化からのサービスの質の低下等は少し心配・・・若い人との交流などもあれば良いと思う。
- ・お弁当配達中だと（配達先の高齢者の方と）あまり話し相手になれる時間がないのどうにか話し相手の時間を増やせないか？
- ・情報発信が不足しているかも。手伝いたい人ももっと多くいると思う。
- ・介護関係の専門学生などに手伝ってもらう機会を増やしては？



グループだいこん草

グループききょうの考察を踏まえ、〈感想や素晴らしいと思った点〉〈もっとこうしたらいいのではないかと〉という提案や疑問を付箋に書き出して発表しました。

考察結果

感想・素晴らしいと思った点

- ・女性が社会参画している場としてできること、やれることをやりがいにしている。
- ・あかねサロンが地域づくりの場としての役割を担っている。
- ・サービスを広げすぎないなど、現実的な視点から活動しているのがよい。

提案・疑問

- ・お弁当の食材に地元の食材や、自分たちでつくった野菜を使ってみては。
- ・コミュニティの拡大を目指しては。
- ・若い世代への普及や啓発を！



グループぶどう

グループききょう・だいこん草の考察結果に共通するポイントを抽出し、考察を深めました。

考察結果

感想・素晴らしいと思った点

- ・武田さんをはじめあかねグループの皆さんやボランティアの皆さんの笑顔が素敵。
- ・「できること」「したいこと」がそのままサービスになっているのがよい。
- ・高齢者の「見守り」というサービスがよい。
- ・スタッフの皆さんのコミュニケーション能力から、相手への思いやりがみられる。

提案・疑問

- ・エリアを拡大していくためには、他のグループとの連携も必要ではないか。
- ・いろんなところにもっと情報発信していくべき。
- ・（あかねサロン利用者も）年代層を増やす。
- ・ボランティアにもっと若い世代が必要。



グループゼラニウム

グループききょう・だいこん草・ぶどうが書いた意見を短冊状にし、様々な意見の中から〈共通する点〉〈関連付けられる点〉を結びつけて浮かび上がった課題について、今後の方向性を探りました。

考察結果

課題と今後の方向性

- 太白区への配食拡大
 - ・活動の拡大と活動理念とのバランスが課題。
 - ・キメの細かい対応を続けながら、質を向上させるためには何がベターか（探っていく必要がある）。
- 地産について
 - ・安全な食と、安定供給の問題。
 - ・地域貢献という意味でも地産を追求してはどうだろうか？
 - ・契約農家を作ってみてはどうか？
- 残さ（ごみ）の問題
 - ・ごみの堆肥化など地産地消と併せて今後の課題。
- 他の企業やグループとの連携
 - ・情報を発信していくことで、他の団体との連携もとれるではないか。
 - ・他団体との連携などどのように市民力を取り入れていくかが今後の課題ではないか？



ファシリテーター増田さんのまとめ



黄色付箋紙の「感想・印象・発見」、水色付箋紙の「課題・対策・提案」は、それぞれがフィールドの経営資源、将来像へつながる意見となりました。赤色付箋紙には、「出来そうな活動・事業」「してみたい活動・事業」を書いていただきました。

それらの意見から、28年間活動し、現在高齢者へ年間36,000食の配食を行っている有力な特定非営利活動法人にも関わらず、あまり市民の方々には知られていないということが見えてきたり、また、主な活動であるお弁当作りに関する食材確保や残食の問題、活動の規模拡大などについて参加者の皆さんと考察をしていくこともできました。

こういった課題へは、さまざまな組織と連携をとりながら取り組んでいかなければ、解決をすることはなかなか難しいものです。その取り組みの過程で「市民力」をどう取り入れていくかが今後大きな鍵となると思います。

フィールド

TRUNK

若林区卸町 2-15-2

【地域産業振興、若者支援】

- 事業目的:新ビジネスモデル・ライフスタイルの創出、クリエイター等活動支援、組合・組合員企業の事業高度化・高付加価値化、地域経済活性化
- 運営主体:協同組合仙台卸商センター
- 市民の関わり:卸町発のクリエイティブ商品や芸術を享受
- 行政の関わり:企画、財政支援
- 活動概要:平成22年2月に旧卸商センターホテルを改修し、集合作業オフィスとしてオープン。入居する若手クリエイターの活動を常駐インキュベーション・マネージャーが支援することを特徴とする。また、クリエイター相互の協働や、仙台卸商センター、周辺施設(音楽スタジオ「MOX」や演劇練習施設「10-BOX」)の活動との有機的な連携によって、様々な知識と技術を生かし、よりよい地域社会の実現を目指すプロジェクトが生まれる場の支援を行う。

ファシリテーター 1日 針生 英一さん(リテラコミュニケーションズ株式会社代表取締役)
2日 足立 千佳子さん(夢工房代表)



STEP1・2 フィールドで聞く・見る

協同組合仙台卸商センター総務部長 武田要二さんから、TRUNKの活動概要、卸町の歴史と卸町活性化やまちづくりの取組みに関する様々な活動についての説明をいただきました。さらに、TRUNKに常駐するインキュベーション・マネージャー柿崎慎也さんの説明を受けながら施設を見学しました。



武田要二 総務部長 柿崎慎也さん

STEP3 フィールドで話し合う

グループゼラニウム

針生さんをファシリテーターとして、実践者からの説明や現場見学を通じて(気づいた点・良かった点・驚いた点)などを参加者全員が付箋に書き出し、それに対し武田さんから補足説明をいただきました。

考察結果

気づいた点・良かった点・驚いた点

- ・卸町を「変える」のではなく、「生かす」ということを目指して創造しているのすばらしいと感じた。
- ・昔からの文化を守り続けるという保守的な考えの街と思っていましたが、どんどん開かれた街にしようという意気込みが伝わってきました。
- ・卸町にクリエイティブ産業! ? という意外性が話題性にもつながったのだと思いました。
- ・“ありそうでなかった”という人の心に上手く入り込んだ企画だったのだと感じました。
- ・ホテルが事業所に変身したというのは斬新なアイデア。成功しているというもすごい。
- ・卸町という地域が抱える課題に対してクリエイティブ産業という答えをどう導き出したのか?

〈なぜ文化・アートなのか?〉 武田さんの補足説明

- ・生き残りを図るため。多様なまちにすることがねらい。卸売業は事業所数、就業者数ともに低下していることから現在協同組合の規約を変更し、流通業や卸売業に使える用地の用途を緩和し、別の用途に転用してサービス業など卸売業以外の業種・企業からも事業を誘致している。
- ・まちづくりマスタープランのキーワードは「人に愛され、人が集まり、人が住めるまちづくり」



グループききょう

グループゼラニウムでの考察を踏まえ、グループゼラニウムと同様の作業を行いました。

考察結果

気づいた点・良かった点・驚いた点

- ・将来のイメージが膨らむ場の提供をしている(既存の卸町とは違う)。
- ・殺風景な倉庫群のイメージであったが、色々な文化が胎動している事に驚きを覚えた。
- ・我々年代の卸商団地のイメージが様変わりしている。
- ・町おこしのためにアートを使うことはありますが、卸町はアーティストを育てながら自分達も元気になろうというのが新しいと思った。
- ・今後若い世代だけではなく様々な世代に受け入れられることが重要。
- ・地下鉄東西線が開通することで、仙台から卸町へたくさんの人々が来れるようになる。県外からの人も来やすくなるので、ますます仙台市は発展すると思う。
- ・官学産の一体化による産業の創生。

〈様々なイベントを行うねらいは?〉 武田さんの補足説明

- ・まわり道かもしれないが、長い期間で多様性のある居住を含んだ事業を行うことで卸町の活性化につながると考えている。
- ・TRUNKと演劇工房 10-BOX、音楽練習場 MOX は相互に交流を持って様々な活動を行っている。また SOKO (倉庫を利用したイベントスペース) で演劇やアート系イベント開催している。



グループだいこん草

グループゼラニウム・ききょうの考察を受け、さらにこれまで見てきた2つのフィールド(メディアテーク・あかねグループ)での活動と TRUNK のアイデアやノウハウを「つなげる」ことで新たな TRUNK の活動に発展できないかをテーマに考察し、意見を出しました。

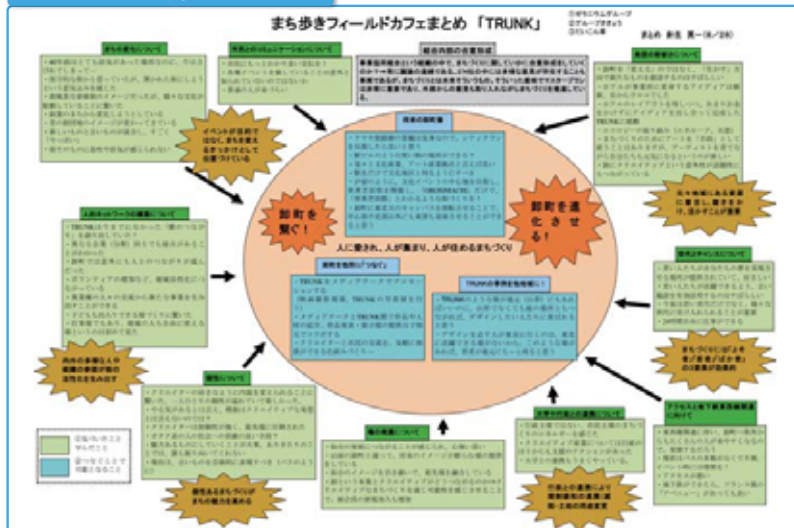
考察結果

新たな TRUNK の活動へ発展させるためのアイデア

- ・(東京都と民間が一体となって開発に取り組んでいる) 汐留地区のように、文化イベントの中心地を目指し、世界芝居祭を開催し、「OROSHIMACHI」だけで、「世界芝居祭」とわかるような街づくりを!
- ・TRUNKのクリエイターと市民の交流。市民の趣味や関心を形にする相談に乗ってほしい!!
- ・TRUNKをせんだいメディアテークでプロモーション(映画撮影現場、TRUNKの写真展を行う)。
- ・せんだいメディアテークと TRUNK 間で作品や人材の紹介、作品発表・展示場の提供など相互でコラボレーションする。



ファシリテーター針生さんのまとめ



グループぶどう

足立さんがファシリテーターとなり、グループゼラニウム・ききょう・だいこん草が出した意見を分類し紹介した後、TRUNKの社長になった想定で、TRUNKの魅力をもっと引き出すために〈あったらいいなと思うもの〉〈足りないもの〉を書き出し、発表しました。

考察結果

TRUNKにあってほしいなと思うもの・足りないもの

- ・(居住環境を整備し) TRUNKを(職住を兼ね備えた)一つの建物にしてしまう。
- ・文化だけではなくスポーツイベントともタイアップしたら。
- ・よきこいまつりの会場にしたら。
- ・地下鉄のホーム(看板・ポスターなど)でPRする。
- ・(TRUNKをPRする) ラッピングバスを走らせたら。
- ・TRUNKの人的資源も活用。



ファシリテーター足立さんのまとめ



今回 TRUNK・卸町を訪れて、その変化と発想の斬新さにみなさん驚いていました。さらに、今回のワークショップでは TRUNK や卸町をもっともっと活性化させる素晴らしいアイデアもたくさん出ていただきました。こうしたアイデアや意見を是非、TRUNK や卸町の活動に取り入れていただければと思います。



フィールド

壹式参横丁

青葉区一番町 2-3-28
【集客・市民交流】

- 事業目的：地域の産業振興と集客促進
- 運営主体：中央市場商業協同組合
- 市民の関わり：出店、商品・サービスの購入、交流の場づくりへの参画
- 行政の関わり：企画、財政支援
- 活動概要：昭和21年に中央公設市場として始まった飲食店、雑貨屋など様々な店舗が軒を連ねている連鎖街。現在、横丁の将来を検討するため、NPO法人まちづくり com が横丁運営主体と入店者とのコーディネーター役となり勉強会を開催し、横丁を活用した地域産業の活性化、集客の促進、まちづくりを行っている。また、今年度、社会と芸術をつなぐ「せんだい横丁クルージング」（主催：仙台市、企画：（財）仙台市市民文化事業団）の協力地域ともなっており、新たな特色づくりが行われている。

ファシリテーター 1日目：2日目 柳井 雅也 さん [東北学院大学教授]

STEP1・2

フィールドで聞く・見る

NPO 法人まちづくり com 事務局長 高橋雄志さんから「いろは横丁の『現在・過去・未来』と題して、壹式参横丁の歴史、壹式参横丁の活性化の様々な取組についてご説明をいただいた後、壹式参横丁のいろいろな店舗や横丁内に残されている井戸などを見学しました。



高橋雄志事務局長

STEP3

フィールドで話し合う

グループぶどう

柳井さんをファシリテーターとして、実践者からの説明や横丁内の見学から見つけた、壹式参横丁の〈宝（歴史の宝、人の宝、知恵の宝、交流の宝、産業の宝）〉を青い付箋に書きました。さらに〈問題点〉を赤い付箋に書き、壹式参横丁の白地図に貼りました。



白地図に付箋を貼っている様子

考察結果

宝

- ・お店のイスやベンチが壊りたくなっていない。
- ・入口の暖簾がいい。
- ・サンモールからの入口の雰囲気がいい。
- ・イメージしてなかったオシャレなお店があったことに驚いた。

問題点

- ・入口が暗くて入りづらい。
- ・リアカー屋台や井戸などいい所もあるけど認知度が低い。
- ・もったいないところが多い。
- ・閉まっているお店が多い。
- ・通りに自転車やバイクがあると歩きづらい。
- ・トイレをもう少しきれいに。
- ・どうしても飲み屋さんのイメージが強い。
- ・マイケルジャクソンのお店とかももっと若者を呼べるように PR すべき。
- ・駐輪場が狭くてあまり止められない。
- ・植物がもっとあったらいい。
- ・レトロとはいえってもホコリやクモの巣は取るべき。
- ・天井が低くて外国人向きではない。
- ・車椅子（での通行）は大変。
- ・全体的に暗い。
- ・清潔感が必要。

さらに壹式参横丁活性化のための提案も出しました。

提案

- ・空き店舗の活用。土日に学生に安く貸し出してフリーマーケットをやって若者を呼び込む。
- ・（壹式参横丁パネル展、ウェブサイトの構築など）学生とのコラボレーションはいいが、全体的に統一感がないので、コンセプトをしっかりと。

グループゼラニウム

グループぶどうの付箋を見ながら、付け足すところを見つけたり、付箋のアイデアを結んで企画を膨らませたりしながら考察を深め、壹式参横丁活性化の〈企画のタネ〉出しをしました。

考察結果

宝

- ・入口で人を呼び込む。
- ・オシャレなお店やカフェなどうまく PR すれば若い人も集まりそう。
- ・リアカー屋台は市民との距離が近い。

問題点

- ・トイレがくさい。
- ・「〇〇があるからここに来る、〇〇のために来る」といった名物的なモノが少ない。
- ・バリアフリーに。
- ・女性が入りづらい。

企画のタネ

- ・名物料理（を作ったら）。
- ・井戸水をつかってお茶を提供する。
- ・リアカーを走らせたい。
- ・井戸を使って集客できないか？
- ・「壹式参」は古臭いので、もっとモダンな名前に！「アロハ」は？
- ・音楽を流してみれば。
- ・レトロな感じを活かす灯りをつける。
- ・井戸水を使っているのは横丁酒。
- ・壹式参横丁の歴史を紹介する案内施設。
- ・気楽に入れる工夫を。
- ・お客さんと呼ぶための何かパフォーマンスをする。



グループききょう

グループぶどうで出した〈提案〉、グループゼラニウムで出た〈企画のタネ〉をみて、いい所をもっと磨き、足りないところを付け足しながら、壹式参横丁の〈プロジェクト〉を考え、案を書きました。

考察結果

プロジェクト案

- ①「広い所で人を呼び込む」ボランティアスタッフが壹式参横丁の外で声掛けして PR し、横丁に人を呼び込む。
- ②「明るい壹式参」照明を明るくして、女性を呼び込む。トイレをもっときれいに。「もう一度来たくくなるようなトイレ」
- ③「レトロなまちづくり」第一印象が男性的で怖いからその辺を改善。お店の人がもっと「あいさつ」をしたらいいのではないかと。
- ④「THE 昭和」昭和のレトロをできるだけ残して活用。仙台が一番古い屋敷さんなどをもっとアピール。
- ⑤「だれでもまちおこし」リアカー屋台で壹式参横丁にどんなお店があるのかを紹介。若い人や一般の人に町づくりを考えるきっかけにする。
- ⑥「壹式参横丁ツアー」留学生や外国人に。案内の人がいると「なるほど」がいっぱい。案内の人は昭和なレトロな服を着て TRUNK の最新さと壹式参の昭和を合わせてうまく伝える。
- ⑦「昭和へようこそ」昭和で統一。入口はあえて小さくし、中に入ると「あつ、昭和」って感じに。固定客、リピーターを増やす。



グループだいこん草

グループききょうまでの考察を踏まえ、グループききょうと同様にプロジェクト案を作成しました。

考察結果

プロジェクト案

- ①「ターゲット別壹式参横丁ツアー」外国人、学生など対象別にツアーを実施。アイストップの充実。若い人をターゲットに仙台の有力な観光スポットにする。
- ②「壹式参観光ツアー」外国人を対象に仙台の魅力伝える。外国人を増やしたい。観光客の増加、地下鉄からの集客。
- ③「壹式参横丁肝だめし」一本道が長くて暗いので、井戸も利用して。砂利でも OK なのでもっと歩きやすく。若い人をターゲットに、中高生が身近に感じられるような壹式参横丁にしたい。
- ④「立て看板の統一」「はみだし居酒屋」アイストップの充実。若い人をターゲットにするなら安く。
- ⑤「縁・円をつくるまち 壹式参横丁」出会う場、語らいの場、壹式参横丁を線で考える。
- ⑥「地面の凹凸をなんとかする」砂利でも OK なのでもっと歩きやすく。

ファシリテーター柳井さんのまとめ



今回のフィールドワークを通じて、まちが進化していくためには「外の人に批判されなければいけないということ」「外のまちを見て進化すること」「自分たちの宝を外から見ること」で活性化が生まれるということ。そして「壹式参横丁は発展段階にあるということ」が分かった。



壹式参横丁の白地図に宝を青い付箋に、問題点を赤い付箋に書いて貼っていただきました。



フィールド せんだいメディアテーク

青葉区春日町 2-1
【学び、情報発信、芸術】

- 事業目的：地域のための学びと発信の場づくり、アートによる表現と発見の場づくり
- 運営主体：財団法人仙台市民文化事業団
- 市民の関わり：空間と機能の活用、文化活動への参画、情報の閲覧・活用と発信
- 行政の関わり：市民の文化活動や情報発信の支援、空間・機能の維持と効果的活用の開発・普及
- 活動概要：美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々が様々なメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなすことを支援する公共施設。今年度、開館 10 周年を迎えるにあたり、これまでを振り返りつつ、次の 10 年の展望を市民とともに考える事業を展開中。

ファシリテーター 1日目 宮原 育子 さん【宮城大学教授】
2日目 内田 幸雄 さん【仙台市 PTA 協議会会長】

STEP1・2 フィールドで聞く・見る

せんだいメディアテーク副館長の佐藤泰さんから施設の概要説明をいただくとともに、メディアテークで行われている様々な活動や取組みの中から、開館と同時に発足し10年間にわたり活動している「仙台建築都市学生会議」の伊藤寿幸さんと、仙台で若い映像の作り手を支援したいという趣旨で、上映会を実施している「仙台短篇映画祭実行委員会」の菅原睦子さんからご説明をいただきました。



佐藤泰副館長

その後、施設の7階から地下1階まで、チューブ階段で移動しながら施設を見学し、最後に地下1階の活版印刷工房を見学させていただきました。

STEP3 フィールドで話し合う

グループだいこん草

宮原さんをファシリテーターとして、実践者からの活動の説明や館内を見学して見つけた、メディアテークの〈宝〉や〈不足〉を付箋に書き出し、それをもとに意見を出し合いました。



考察結果

宝

- ・「出会い」…人・モノ・情報の集積が発見・成長となり、新しい出会いへとつながっている。
- ・「空間の魅力」（景観・建築）。
- ・4階の勉強スペース（学校帰りなどに利用しやすい）。
- ・地下の活版印刷工房。
- ・1階の開放扉は出入りの時に便利に障害はない。
- ・地域映像アーカイブ。
- ・定禅寺通りを借景にした理想的な建物。音・光を感じる。

不足

- ・チューブ階段の安全性。幼児等に対する安全対策は？
- ・チューブ階段の展示などあまり知られていないので利用してもらえないようにPRすべき。
- ・せんだいメディアテーク友の会をつくってはどうか？
- ・せんだいメディアテークの様々な建物の文化施設の分散化はできないか？
- ・仙台市の施設であるため仙台市民以外は利用できないのでしょうか。（仙台に通学・通勤している学生や会社員は利用できないのか）
- ・年代別の情報発信力。
- ・親しみやすさ。
- ・コミュニティが成立してしまっていて、その他の人が入りにくい雰囲気がある。
- ・館長と利用者の話し合いカフェ。
- ・地域アーカイブの上映。
- ・「つながり」…異なる分野との交流、人脈力、情報共有。
- ・参加者（利用者）の新規開拓…芸術やまちづくりに携わっていない人にも参加を広げる。

グループぶどう

グループだいこん草の付箋を見ながら、グループだいこん草と同様の作業を行いました。

考察結果

宝

- ・10年たったが古さを感じさせない造りは色々な人達の意見を取り入れた設計が良かった。
- ・仙台市の公共の建築物の中では大都市並み。おしゃれでモダン。
- ・開放的な空間が魅力。
- ・オープンスペース（市民同士、行政と市民、気軽な交流が生まれる）。
- ・壁がない開かれた空間。

不足

- ・駐車料金は有料で高い。場合によっては免除してほしい。
- ・利用者いかに階段を使うように仕向けるか。
- ・階段を利用することで、目的とは異なるイベントにも足を向けるようになるのでは？
- ・ユニークなつくりが分かりにくさ、使いづらさになっているのでは。（例：図書館の中2階）
- ・行っている市民活動をもっとアピールすべき。
- ・裏側ツアーをやって欲しい。
- ・仙台の街全体を巻き込んだ活動がほしい。（一部の人達だけの場所がある）
- ・駐車場もアーティストのパフォーマンスの場所として使えないか？



グループゼラニウム

グループだいこん草・ぶどうがみつけた〈宝〉や〈不足〉を整理し、「その〈宝〉を活かすためにはどうすればいいか？」をテーマに（プロジェクト）を考えました。

グループだいこん草・ぶどうが見つけた宝のまとめ

- ・人と人との交流 ・空間 ・活版印刷 ・建物の美しさ ・施設の内側 ・活動性 ・利便性 ・疑問 ・雰囲気 ・対話 ・要望 ・建物、アピール ・駐車場

グループだいこん草・ぶどうが見つけた不足のまとめ

- ・人との交流 ・空間 ・活版印刷 ・建物の美しさ ・施設の内側 ・活動性 ・利便性 ・疑問 ・雰囲気 ・対話 ・要望 ・建物、アピール ・駐車場

考察結果

宝を活かし、より使いやすく利用してもらうためにはどうすればいいか？

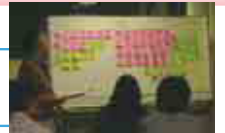
- ・（図書館以外の施設や活動を味わってもらえるように）図書館を上階に ・（いろんな活動を行っていることが見えにくいので）もっとアピールするべき
- ・案内が少ない（のでわかりやすいように配置の工夫や表示を増やすことなどが必要）

〈プロジェクト〉

せんだいメディアテークをもっと親しみやすくするために、施設や活動を紹介する「せんだいメディアテークツアー」を作ったらどうだろう。

ファシリテーター宮原さんのまとめ

参加者の皆さんからどのような意見がでるか、少し不安な面もありましたが、非常に前向きで建設的な議論ができ、「せんだいメディアテークツアー」という非常に魅力的なプロジェクトが生まれ、参加者の柔軟な発想に驚かされました。



グループききょう

内田さんをファシリテーターに、グループゼラニウムから提案された「せんだいメディアテークツアー」という企画を実現するための具体的なアイデアを膨らませました。またメディアテークの魅力を活かすためのアイデアも出しました。

考察結果

「せんだいメディアテークツアー」の具体的なアイデア

- ・世代ごとのツアーをつくる。（例：大学生ならどのように使えるのかを紹介）
- ・ツアーではなく「祭り」にする。
- ・様々な団体がせんだいメディアテークを利用しているので、そうした利用している団体を紹介するツアーがあるといい。
- ・初めて仙台に来た方に仙台の主な場所を巡るツアーを企画し、そこにせんだいメディアテークも入れる。
- ・宮城県内の大学に建築ツアーの呼びかけ。せんだいメディアテークの職員が、各大学の教授などに呼びかければ興味のある大学生が来るのでは？

メディアテークの魅力を活かすためのアイデア

- ・周りのお店にチラシなどを置いてもらう。
- ・（各階に）花を置く。
- ・活版印刷工房を利用して、書式参横丁のチラシをつくる。（せんだいメディアテークと書式参横丁の双方を知ってもらえる。）
- ・駐車場で映画などの撮影場所にする。
- ・駐車場で作品展示をする。
- ・企業とのコラボレーションで朝に勉強会をする。
- ・託児施設の設置。
- ・図書館の点字を設置。
- ・対外的なアピールの方法として、仙台駅構内に「仙台市の観光案内施設」を開設する。



ファシリテーター内田さんのまとめ

今回のワークショップを通じてせんだいメディアテークの建物の素晴らしさを再発見したという意見が多かったように感じました。そこで、「より親しみやすく、足を運んでもらいやすくするためにどうしたらいいか」というテーマで、みなさんから提案された「せんだいメディアテークツアー」の具体的なアイデアを話し合いました。



グループききょう

行程表 あかねグループ → TRUNK → 壱式参横丁 → せんだいメディアテーク

あかねグループ

活動実践者 武田 美江子 理事長
清水 福子 さん
伊藤 美子 さん
ファシリテーター 増田 聡 さん

最初の訪問先のあかねグループでは、活動説明や見学を通して感じた〈感想や素晴らしいと思った点〉〈もっとこうしたらいいのではないかと〉という提案・疑問を付箋に書き出し発表しました。


意見

〈感想・素晴らしいと思った点〉

- ・武田さんのお話がとってもよかったです！やさしい気持ちでこういう事業を興すことになるのかな。
- ・1Fにサロンで活動できる憩いの場所があるのがいい。
- ・ボランティアの方たちの笑顔が素敵。
- ・“高齢者の見守り”という視点でも、宅配サービスは有意義であると思う。

〈提案・疑問〉

- ・あかねサロンが高齢者の方だけではなく、様々な年代の住民が集まれる場となればよいと思う。
- ・仙台市内のカバーはこれからしていけると思うが宮城県内で田舎の方とのサービス格差が生じているのではないかと。
- ・太白区の方の配食は今後検討されませんか？



せんだいメディアテーク

活動実践者 佐藤 泰 副館長
伊藤 寿幸 さん
菅原 睦子 さん
ファシリテーター 内田 幸雄 さん

4つ目の訪問先としてメディアテークを訪問しました。先に訪問したグループだいこん草・ぶどうから出たメディアテークの〈宝〉や〈問題点〉、グループセラニウムから出たメディアテークの宝を活かしていくための〈プロジェクト〉を踏まえて、そのプロジェクトを実際に行うための具体案を考えました。

また、メディアテークの魅力をもっと広げるためのアイデアも生まれました。

グループだいこん草・ぶどうから出た宝

- 人と人との交流
- 空間
- 活版印刷
- 建物の美しさ
- 施設の内外部
- 活動性

グループだいこん草・ぶどうが見つけた不足

- ・利便性
- ・疑問
- ・雰囲気・対話
- ・要望
- ・建物、アピール
- ・駐車場

グループセラニウムから出た〈プロジェクト〉

せんだいメディアテークをもっと親しみやすくするために、施設や活動を紹介する「せんだいメディアテークツアー」を作ったらどうだろう。

これらを踏まえてグループききょうでは、「せんだいメディアテークツアー」を具体的にどのようにしていけばいいかというテーマでアイデアを膨らませました。

〈具体的アイデア〉

- ・世代ごとのツアーをつくる。(例、大学生ならどのように使えるのかを紹介。)
- ・ツアーではなく「祭り」にする。
- ・様々な団体がせんだいメディアテークを利用しているので、そうした利用している団体を紹介するツアーがあるといい。
- ・初めて仙台に来た方に仙台の主な場所を巡るツアーを企画し、そこにせんだいメディアテークも入れる。
- ・宮城県内の大学に建築ツアーの呼びかけ。せんだいメディアテークの職員が、各大学の教授などに呼びかければ興味のある大学生が来るのでは？

メディアテークの魅力をもっと広げるためのアイデア

- ・周りのお店にチラシなどを置いてもらう。
- ・(各階に)花を置く。
- ・活版印刷を利用して、壱式参横丁のチラシをつくる。(せんだいメディアテークと壱式参横丁双方を知ってもらえる。)
- ・駐車場を映画などの撮影場所にする。
- ・駐車場に作品展示をする。
- ・企業とのコラボレーションで朝に勉強会をする。
- ・託児施設の設置。
- ・図書館の点字を設置。
- ・対外的なアピールの方法として、仙台駅構内に「仙台市の観光案内施設」を開設する。

TRUNK


活動実践者 武田 要二 総務部長
柿崎 慎也 さん
ファシリテーター 針生 英一 さん

2番目の訪問先のTRUNKでは、活動説明、施設見学を通して〈気づいた点・良かった点・驚いた点〉を付箋に書き出し発表しました。

意見

〈気づいた点・良かった点・驚いた点〉


- ・目からウロコの世界。着眼最高。
- ・TRUNKの発想が素晴らしい。かつホテル跡を使用した事が二重に良い。
- ・卸町は単に卸業の町という認識しかなかったのが今回参加することによりいろいろ解った。
- ・卸町はいろんなイベントをすることで、多様な町になっている。また、クリエイティブ産業によって独特の町にもなっている。
- ・デザインをした人が東京に行くのは、東北に機会がないからなのでTRUNKのような場があれば若者がもつと地元に残ると思った。



壱式参横丁

活動実践者 高橋 雄志 事務局長
ファシリテーター 柳井 雅也 さん

3番目の訪問先である壱式参横丁では、先に訪問したグループぶどうで出した壱式参横丁の〈宝〉〈問題点〉壱式参横丁活性化のための〈提案〉、グループセラニウムで出した〈宝〉〈問題点〉壱式参横丁活性化の〈企画のタネ〉を見て、それらに足りない所を付け足し、いい所をもっと磨いて壱式参横丁活性化の〈プロジェクト〉を考えました。



横丁内に残っている手押し井戸の井戸

グループぶどうから出た〈宝〉〈問題点〉〈提案〉

〈宝〉

- ・お店のイスやベンチが座りたくなっていい。
- ・入口の距離がいい。
- ・サンモールからの入口の雰囲気がいい。
- ・イメージしなかったオシャレなお店があったことに驚いた。

〈問題点〉

- ・入口が狭くて入りづらい。
- ・リアカー・屋台や井戸などいい所もあるけど認知度が低い。
- ・もったいないところが多い。
- ・開まっているお店が多い。
- ・通路に自転車やバイクがあると歩きづらい。
- ・トイレをもう少しきれいに。

〈提案〉

- ・空き店舗の活用。
- ・土日に学生に安く貸し出してフリーマーケットをやって若者を呼び込む。

グループセラニウムから出た〈宝〉〈問題点〉〈企画のタネ〉

〈宝〉

- ・入口で人を呼び込む。
- ・オシャレなお店やカフェなどPRすれば若い人も集まりそう。
- ・リアカー・屋台は市民との距離が近い。

〈問題点〉

- ・トイレがくさい。
- ・〇〇があるからここに来る、〇〇のために来る」といった名物的なモノが少ない。
- ・パリアフリーに。
- ・女性が入りづらい。

〈企画のタネ〉

- ・名物料理(を作ったら) ・井戸水を使っている横丁酒。
- ・井戸水をつかってお茶を提供。 ・壱式参横丁の歴史を紹介する案内施設。
- ・リアカーを走らせたい。 ・気楽に入れる工夫を。
- ・井戸を使って集客。 ・お客さんを呼び込むための何かパフォーマンスをする。
- ・「壱式参」は古臭いので、もっとモダンな名前に「アロハ」は？
- ・音楽を流してみれば。
- ・レトロな感じを活かす灯りをつける。

グループききょうで考えた〈プロジェクト案〉

〈プロジェクト〉

- ①「広い所で人を呼び込む」
ボランティアスタッフが壱式参横丁の外で再掛けしてPRし、横丁に人を呼び込む。
- ②「明るい壱式参」
照明を明るくして、女性を呼び込む。
トイレをもっときれいに。もう一度来たくならないトイレ。
- ③「レトロなまちづくり」
第一印象が男性的で怖いからその辺を改善。
お店の人がもつと「あいさつ」をしたら？
- ④「THE 昭和」
昭和のレトロ口をできるだけ残して活用。
仙台が一番古い銀座さんなどをとアピール。
- ⑤「だれでもまおこし」
リアカー・屋台で壱式参横丁にどんなお店があるのかを紹介。若い人や一般の人にまちづくりを考えるきっかけにする。
- ⑥「壱式参横丁ツアー」
留学生や外国人に。
案内の人がいると「なるほど」がいっぱい。
案内の人は昭和なレトロな服を着てTRUNKの最新さと壱式参の昭和をうまく(併せて)伝える。
- ⑦「昭和へようこそ」
昭和で統一。入口はあえて小さくし、中に入ると「あつ、昭和」って感じに。固定客・リピーターを増やす。

グループセラニウム

行程表 TRUNK → 壱式参横丁 → せんだいメディアテーク → あかねグループ

TRUNK

活動実践者 武田 要二 総務部長
柿崎 慎也 さん
ファシリテーター 針生 英一 さん

最初の訪問先のTRUNKでは、活動の説明や施設の見学を通して〈気づいた点・良かった点・驚いた点〉などを付箋に書き出しました。

意見

〈気づいた点・良かった点・驚いた点〉

- ・一人ひとりカカ（個性）を出し合い、一つのもの自由な作り出ししている。
- ・卸町は意外にも人とのつながりがさかんだった。（例：国際交流イベント、映画のロケ地 etc）
- ・さまざまな企業が1つの建物に集まって仕事をしていることを知り驚いた。
- ・会議室があったが、その部屋には天窓が2つあり昼間は電気をつけなくても明るかった。なるべくコストを減らして良いものをつくることに今は少なくなっている節約の心みたいなものを学んだ。
- ・クリエイティブ産業について行政の方から先にアクションがあったものの、行政主導ではなく、市民主導によりまちを変えようというエネルギーを感じた。
- ・卸町という名称は古いので時代にとり残された感じ。町の名称を変えるべき。
- ・各種イベントを開催していることを意外に知らなかった。



壱式参横丁

活動実践者 高橋 雄志 事務局長
ファシリテーター 柳井 雅也 さん

2番目の訪問先では、先に訪問したグループぶどうの見た壱式参横丁の〈宝〉〈問題点〉の付箋を見ながら、付け足すところを見つけたり、付箋のアイデアを結んで企画を考えたり、アイデアを膨らませ壱式参横丁活性化の〈企画のタネ〉を考えました。

意見

〈宝〉

- ・入口で人を呼び込む。
- ・オシャレなお店やカフェなどまくPRすれば若い人も集まりそう。
- ・リアカー屋台は市民との距離が近い。

〈問題点〉

- ・トイレが小さい。
- ・「〇〇があるからここに来る、〇〇のために来る」といった名物的なモノが少ない。
- ・バリアフリーに。 ・女性が入りづらい。

〈企画のタネ〉

- ・名物料理（を作ったら）。
- ・井戸水をつかってお茶を提供。
- ・リアカーを走らせたい。
- ・井戸を使って集客。
- ・「壱式参」は古臭いので、もっとモダンな名前に！「アロハ」は？
- ・音楽を流してみれば。
- ・レトロな感じを活かす灯りをつける。
- ・井戸水を使っていろは横丁酒。
- ・壱式参横丁の歴史を紹介する案内施設。
- ・気楽に入れる工夫を。
- ・お客さんを呼ぶための何かパフォーマンスをする。



あかねグループ

活動実践者 武田 美江子 理事長
清水 福子 さん
伊藤 美子 さん
ファシリテーター 増田 聡 さん

4番目の訪問先の「あかねグループ」では、グループききょう・だいこん草・ぶどうが出した意見の中から〈共通する点〉〈関連付けられる点〉を結び付けて浮かび上がった課題について、今後の方向性を探りました。



課題と今後の方向性

太白区への配食拡大

- ・活動の拡大と活動理念とのバランスが課題。キメの細かい対応を続けながら、質を向上させるためには何か「ベターか」（探っていく必要がある）。

地産について

- ・安全な食と、安定供給の問題。地域貢献という意味でも地産を追求してみてもどうか。
- ・契約農家を作ってみてはどうか？

残さ（ごみ）の問題

- ・ごみの堆肥化など地産地消と併せて今後の課題。

他の企業やグループとの連携

- ・情報を発信していくことで、他の団体との連携もとれるのではないかと。そのために市民力でそこをいかに担っていくのが今後の課題でないか？

せんだいメディアテーク

活動実践者 佐藤 泰 副館長
伊藤 寿幸 さん
菅原 睦子 さん
ファシリテーター 宮原 育子 さん

3番目の訪問先のメディアテークでは、先に訪問したグループだいこん草・ぶどうが見つけた〈宝〉や〈不足〉を整理し、「その〈宝〉を活かすためにはどうすればいいか？」をテーマに〈プロジェクト〉を考えました。

第一印象

考察の前に、せんだいメディアテークの第一印象を聞きました。

- ・モダンすぎてついていけない（壱式参横丁との差）。
- ・すばらしい建物。
- ・図書館のみ利用。
- ・ネットワーク、コミュニケーションを大事にしているのはいいこと。
- ・すごいなーという印象しかない。あまり親しみがわかない。
- ・7階に新たな発見。壁がない。
- ・図書館に来るしか目的がない。もっと様々な目的で来られるようにしてほしい。
- ・オシャレ。蛍光灯など工夫されている。



地下1階の活版印刷工房

グループだいこん草・ぶどうが見つけた宝のまとめ

- 人と人との交流
- 空間
- 活版印刷
- 建物の美しさ
- 施設の内部
- 活動性

グループだいこん草・ぶどうが見つけた不足のまとめ

- 利便性
- 疑問
- 雰囲気・対話
- 要望
- 建物、アピール
- 駐車場

【グループセラニウムの考察】

宝を活かし、より使いやすく利用してもらうためにはどうすればいいか？

- ・（図書館以外の施設や活動を味わってもらえるように）図書館を上階に。 ・（いろんな活動を行っていることが見えにくいので）もっとアピールするべき
- ・案内が少ない（のでわかりやすいように配置の工夫や表示を増やすなどが必要）

〈プロジェクト〉

せんだいメディアテークをもっと親しみやすくするために、施設や活動を紹介する「せんだいメディアテークツアー」を作ったらどうだろう。

グループぶどう

行程表 吉式参横丁 → せんだいメディアテーク → あかねグループ → TRUNK

吉式参横丁

活動実践者 高橋 雄志 事務局長
ファシリテーター 柳井 雅也 さん

最初の訪問先の吉式参横丁では、説明や見学を通して見つけた吉式参横丁の〈宝〉(歴史の宝、人の宝、知恵の宝、交流の宝、産業の宝)を青い付箋に、〈問題点〉を赤い付箋に書いて吉式参横丁の地図に貼っていました。

意見

〈宝〉

- ・お店のイスやベンチが座りたくなくていい。
- ・入口の暖簾がいい。
- ・サンモールからの入口の雰囲気がいい。
- ・イメージしなかったオシャレなお店があったことに驚いた。

〈問題点〉

- ・入口が窄くて入りづらい。
- ・リアカー・屋台や井戸などいい所もあるけど認知度が低い、もったいないところが多い。
- ・閉まっているお店が多い。
- ・通路に自転車やバイクがあると歩きづらい。
- ・トイレをもう少しきれいに。
- ・どうしても飲み屋さんのイメージが強い。
- ・マイケルジャクソンのお店とかもって若者を呼べるようにPRすべき。

さらに吉式参横丁活性化のための提案も出しました。

〈提案〉

- ・空き店舗の活用。土日に学生に安く貸し出してフリーマーケットをやって若者を呼び込む。
- ・(吉式参横丁パネル展、ウェブサイトの構築など) 学生とのコラボレーションはいいが、全体的に統一感がないので、コンセプトをしっかりと。



- ・駐輪場が狭くてあまり止められない。
- ・植物がもっとあつたらいい。
- ・レトロ口とはいってもホコリやクモの巣は取るべき。
- ・天井が低くて外国人向きではない。
- ・車椅子(での通行)は大変。

せんだいメディアテーク

活動実践者 佐藤 泰 副館長
伊藤 寿幸 さん
菅原 睦子 さん
ファシリテーター 宮原 育子 さん

2番目の訪問先のメディアテークでは、先に訪問したグループだいこん草が見つけたメディアテークの〈宝〉(不足)を見て、メディアテークの〈宝〉(不足)を付箋に付け足していきました。

〈宝〉

- ・10年たつたが古さを感じさせない造りは色々な人達の意見を取り入れた設計が良かった。
- ・仙台市の公共の建築物の中では大都市並み。おしゃれでモダン。
- ・開放的な空間が魅力。
- ・オープンスペース(市民同士、行政と市民、気軽な交流が生まれる)。
- ・壁がない開かれた空間。

〈不足〉

- ・駐車料金は有料で高い。場合によっては免除してほしい。
- ・利用者にいかに階段を使うように仕向けるか。
階段を利用することで、目的とは異なるイベントにも足を向けるようになるのでは？
- ・ユニークなつくりが分かりにくさ、使いづらさになっているのでは。(例、図書館の中2階)
- ・行っている市民活動をもっとアピールすべき。
- ・裏側ツアーをやって欲しい。
- ・仙台の街全体を巻き込んだ活動がほしい。(一部の人間だけの場所がある)
- ・駐車場もアーティストのパフォーマンスの場所として使えないか？



地下1階の読書印刷工房



せんだいメディアテークのチューブ階段

TRUNK

活動実践者 武田 美江子 理事長
柿崎 慎也 さん
ファシリテーター 足立 千佳子 さん

4番目の訪問先のTRUNKでは、先に訪問したグループセラニウム・ききょう・だいこん草で出た意見をファシリテーターの足立さんが分類して紹介。さらに、TRUNKの社長になったつもりで、TRUNKの魅力をもっと引き出すために〈あつたらいいと思うもの〉〈足りないもの〉を書き、発表しました。

グループセラニウム・ききょう・だいこん草で出た意見を分類してみると

- まちの変化について
 - 場の発展
 - 発想の斬新さ
 - アクセスと地下鉄開業
 - 世代とチャンスについて
 - 大学や行政との連携
 - 人材ネットワーク構想について
 - 市民とのコミュニケーションについて
 - 個性豊か
 - 将来の卸町像
 - 卸町を他所とつなぐ
 - TRUNKの取組みを他の地域へ
- といった意見がグループセラニウム・ききょう・だいこん草から出ました。



TRUNKの社長になったつもりで考えたTRUNKの魅力をもっと引き出すための〈あつたらいいと思うもの〉〈足りないもの〉

- (居住環境を整備し) TRUNKを(職住を兼ねそなえた)一つの建物にしよう。
- 文化だけではなくスポーツイベントともタイアップしたら。
- よさこいまつりの会場にしたら。
- 地下鉄のホーム(看板・ポスターなど)でPRする。
- (TRUNKをPRする) ラッピングバスを走らせたら。
- TRUNKの人的資源も活用。

あかねグループ

活動実践者 武田 美江子 理事長
清水 福子 さん
伊藤 美子 さん
ファシリテーター 増田 聡 さん

3番目の訪問先であるあかねグループでは、先に訪問したグループききょう・だいこん草の考察の共通するポイントを抽出しました。また、ボランティアの皆さんがお弁当の配達に向かう様子も見学することができました。

抽出した共通のポイント

〈感想・素晴らしいと思った点〉

- 武田さんをはじめ、あかねグループの皆さんやボランティアのみなさんの笑顔が素敵。
- できることしたいことがそのままサービスになっているのがよい。
- 高齢者の見守りというサービスがよい。
- スタッフの皆さんのコミュニケーション能力から、相手への思いやりがみられる。

〈提案・疑問〉

- エリアを拡大していくためには、他のグループとの連携も必要ではないか。
- いろんなところにもっと情報発信していくべき。
- (あかねサロン利用者も) 年代層を増やす。ボランティアにもっと若い世代が必要。



あかねグループのカーボランティアスタッフの方々が
お弁当の配達に向かう様子




グループだいこん草

行程表 せんだいメディアテーク → あかねグループ → TRUNK → 吾妻参横丁

せんだいメディアテーク

活動実践者 佐藤 泰 副館長
伊藤 寿幸 さん
菅原 睦子 さん
ファシリテーター 宮原 育子 さん



最初の訪問先のメディアテークでは、説明を聞いて、そして館内を見学して見つけた、メディアテークの〈宝〉〈不足〉を付箋に書き出し、それをもとに意見を出し合いました。

意見

〈宝〉


- ・空間でデザイン。
- ・仙台の建物はせんだいメディアテークを見本にすべし。
- ・開放的（意見交換、コミュニケーションが活発になる）。

〈不足〉

- ・せんだいメディアテークのテーマ性を持った年度制の市民利用（毎年同じ利用者のような感じがする）。
- ・地下駐車場営業を考慮して欲しい。また別の利用方法は？
- ・目宝箱（せんだいメディアテークの入館者が感じた希望・要望を入れる）を設置して欲しい。
- ・せんだいメディアテークの祭り。全館を使い、年に一度開催してほしい。

吾妻参横丁

活動実践者 高橋 雄志 事務局長
ファシリテーター 柳井 雅也 さん



4番目の訪問先の吾妻参横丁では先に訪問したグループぶどうで出した〈宝〉〈問題点〉〈提案〉、グループセラニウムで出た〈宝〉〈問題点〉〈企画のタネ〉をみて、いい所をもっと磨き、足りないところを付け足しながら、吾妻参横丁活性化のための〈プロジェクト〉を考え、プロジェクト用紙に自分の案を書きました。

グループぶどうから出た〈宝〉〈問題点〉〈提案〉

〈宝〉

- ・お店のイスやベンチが座りたくなくていい。
- ・入口の暖簾がいい。
- ・サンモールからの入口の雰囲気もいい。
- ・イメージしてなかったオシャレなお店があったことに驚いた。

〈問題点〉

- ・入口が暗くて入りづらい。
- ・リアカー・屋台や井戸などいい所もあるけど認知度が低い。
- ・もったいないところが多い。
- ・閉まっているお店が多い。
- ・通路に自転車やバイクがあると歩きづらい。
- ・トイレをもう少しきれいに。

〈提案〉

- ・空き店舗の活用。
- ・土日に学生に安く貸し出してフリーマーケットをやって若者を呼び込む。

グループセラニウムから出た〈宝〉〈問題点〉〈企画のタネ〉

〈宝〉

- ・入口で人を呼び込む。
- ・オシャレなお店やカフェなどうまくPRすれば若い人も集まりそう。
- ・リアカー・屋台は市民との距離が近い。

〈問題点〉

- ・トイレがくさい。
- ・〇〇があるからここに来る、〇〇のために来る”といった名物的なモノが少ない。
- ・バリアフリーに。
- ・女性が入りづらい。

〈企画のタネ〉

- ・名物料理（を作ったら）。
- ・井戸水を使っているのは横丁酒。
- ・井戸水をつかってお茶を提供。
- ・吾妻参横丁の歴史を紹介する案内施設。
- ・リアカーを走らせたい。
- ・気楽に入れる工夫を。
- ・井戸を使って集客。
- ・お客さんと呼ぶための何かパフォーマンスをする。
- ・「吾妻参」は古いので、もっとモダンな名前に「アロハ」は？
- ・音楽を流してみれば。
- ・レトロな感じを活かす灯りをつける。

グループだいこん草で考えた〈プロジェクト案〉

①「ターゲット別吾妻参横丁ツアー」
外国人、学生など対象別にツアーを実施。
仙台の有力な観光スポットにする。

②「吾妻参観光ツアー」
外国人を対象に仙台の魅力を伝える。
観光客の増加、地下鉄からの集客。

③「吾妻参横丁肝だめし」
一本道が長くて暗いので、井戸も利用して。
若い人をターゲットに、中高生が身近に感じられるようないろは横丁にしたい。


④「立て看板の統一」「はみだし居酒屋」
アイストップの充実。若い人をターゲットにするなら安く。

⑤「縁・円をつくるまち 吾妻参横丁」
出会いの場、語らいの場、吾妻参横丁を線で考える。

⑥「地面の凸凹をなんとかする」
砂利でもOKなのでもっと歩きやすく。

あかねグループ

活動実践者 武田 美江子 理事長
清水 福子 さん
伊藤 美子 さん
ファシリテーター 増田 聡 さん



2番目の訪問先のあかねグループではお弁当の調理の様子やあかねサロンなどを見学、先に訪問したグループききょうの出した意見を踏まえ、〈感想や素晴らしいと思った点〉〈もっとこうしたらいいのではないかとという提案や疑問〉などを付箋に書き出して発表しました。

意見

〈感想・素晴らしいと思った点〉

- ・私もあかねグループの一員になりたい。
- ・現実的な視点を持っている（サービスを上げすぎでない）。
- ・利用者とスタッフ相互の喜びと生きがいになっている。
- ・会員に対する思いやりが伝わってきた。

〈提案・疑問〉

- ・あかねグループの休日は0日の場合、体力が持ちこたえることが可能か。
- ・自分たちの野菜園を作っては（食事利用）。
- ・子どもたちとお母さんのボランティアがあったら、子どもからお母さんそしておばさん（おばあちゃん）にあかねグループの名前や活動が知られると思う。

TRUNK

活動実践者 武田 要二 総務部長
柿崎 慎也 さん
ファシリテーター 針生 英一 さん



3番目の訪問先のTRUNKでは先に訪問したグループセラニウム・ききょうの考察を受け、さらにグループだいこん草がこれまで見てきた2つのフィールド（メディアテーク・あかねグループ）での活動とTRUNKのアイデアやノウハウを「つなげる」ことで新たなTRUNKの活動に発展できないかをテーマに考察し、〈気づいた点・良かった点・驚いた点〉〈新たなTRUNKの活性化に発展させるアイデアや意見〉を出しました。

気づいた点・良かった点・驚いた点

- ・長期的な計画の中に具体的な活動としてのTRUNKがある。
- ・アクセスが悪い（地下鉄が開通すれば少しは改善されると思う）。
- ・産学官の連携ができていて。
- ・若い力でまちおこしをしていくのはいいと思った。
- ・既存のモノ（ホテル）を活用してよかった。
- ・TRUNKがおしゃれだった。
- ・せんだいメディアテークと連携して（アートイベントなど）活動できればいいと思った。

新たなTRUNKの活性化に発展させるためのアイデア

- （東京都と民間が一体となって開発に取り組んでいる）汐留地区のように、文化イベントの中心地を目指し、世界芝居祭を開催し、「TOROSHIMACHI」だけで、「世界芝居祭」とわかるような街づくりを！
- TRUNKのクリエイターと市民の交流。市民の趣味や関心を形にする相談に乗ってほしい！！
- TRUNKをせんだいメディアテークでプロモーション（映画撮影現場、TRUNKの写真展を行う）。
- せんだいメディアテークとTRUNK間で作品や人材の紹介、作品発表・展示場の提供など相互でコラボレーションする。

全体会概要

各フィールドのファシリテーターから全グループの活動報告がされた後、参加者が地域や社会のためにできることをグループで考え、まちづくりへの参画を呼びかけるコマーシャル (CM) を作成し、寸劇形式で発表を行いました。

全体会総合
ファシリテーター



柳井 雅也さん
[東北学院大学教授]

1. みんなでアイデアを出しあった。

フィールドワークでの経験や考察を踏まえ、自分ができること、してみたいことを考えました。

- ① あなたの得意なこと、できることは何ですか？
- ② 自分が地域に関わるとしたら何をしますか (何ができますか)？
- ③ あなたがしてみたいことは何ですか？



2. 地域のためにできることを考えた。

みんなで出し合ったアイデアをつなげグループみんなで会社を作り「地域のために何ができるか」を考えました。



3. 参画を呼びかけるコマーシャルを作った。

グループで考えた「地域のためにできること」を自社のPRと地域に参画を呼びかけるCMに作り上げました。

CM 構成

- ① 会社が取り扱う地域の課題
- ② 各メンバーの (会社内での) 役割
- ③ 会社のキャッチフレーズ
- ④ ○○のできる (人・物) 募集中



グループききょう

ステップ①「あなたのできること、得意なこと何ですか？」

- ・フットサルとか運動
- ・チャイルド minder ができる
- ・草花 (山野草) を育てること
- ・計画すること、すぐ動くこと
- ・文章を書くこと (エッセイや手紙)
- ・野球、歌
- ・柔軟性があること
- ・2日間くらい寝なくても食べなくても平気。お酒に強い



ステップ②「自分が地域に関わるとしたら何をしますか？何ができますか？」

- ・お弁当の配達。通勤時間や営業の合間にお弁当を配る
- ・何かに参加して学びたい
- ・高齢者のひきこもりを防ぐ活動
- ・防災や安全などの環境づくり
- ・子ども好きなので、若いお母さんのサポートがしたい
- ・企業と連携して何かしたい
- ・テニス



ステップ③「あなたがしてみたいことは何ですか？」

- ・現在大学院で勉強しているので、地域に関わる勉強がしてみたい
- ・芋煮会
- ・地域の子どもの育成
- ・高齢者のサポート
- ・本を読むことが好きなので、これを通して地域の人と語り合いたい
- ・高齢者を屋外に連れ出す活動
- ・デザインが好きなので、これを通して山形と仙台をつなぎたい
- ・TRUNKの人達と地域の人達のスポーツ大会



ステップ④「ステップ①②③をつなげてグループで何かできないだろうか？」

- ・「テニス」「野球」「フットサル」などスポーツが得意な人が多いから、スポーツ大会は？仙台市をあげての早期ソフトボール大会とか
- ・育児と介護はつながっている高齢者×孫 孫セラピー 高齢者による育児支援
- ・福祉という考え方
- ・楽しくゆるく婚活 若い人もお年寄りも
- ・夢をつくりだす
- ・いろんなニーズや得意な人もいるのにそれらが出会う場がない

これを実現するには出会いのきっかけが必要なのではないか？

- ・スポーツ大会をやりたいけど人が集まらない
- ・「婚活」という構えてしまう
- ・他人に興味を持つ
- ・「介護」「子育て支援」というふうに構えずに昔の「家族」のように「人が集まれる」地域のコミュニティ

出会いを創る会社を作ろう！



CM制作

グループききょうの会社は
「出会いを創りだす企業」



会社の名前は「**縁の下の力持ち株式会社**」

- ・イメージは「つながり」

キャッチフレーズは「**優しい愛情、つながる絆**」

- ・ききょう (グループ名) の花言葉から

【縁の下の力持ち株式会社】CM

ナレーション

今私たちの暮らしには様々な問題があります。子育て、介護、婚活、そんな問題、悩みを抱えている人たちが出会える場を提供するのが私たちの会社です。目標は昔 (昭和) のような地域コミュニティを作り上げることです。

社長「会社の名前を発表します。〈縁の下の力持ち株式会社〉です。」

スタッフ全員で (一文字ずつ表記した A4 判用紙を一枚ずつ掲げながら) 「〈縁〉〈の〉〈下〉〈の〉〈力〉〈持〉〈ち〉〈株〉〈式〉〈会〉〈社〉です。よろしくお願いします。」

社長「それではメンバーの紹介をいたします。まず、私が社長の永井です。では営業部長の大野さんよろしくお願いします。」

営業部長「みなさんどうぞウチの会社にいらしてください。大サービスします。」

社長「続いて営業課長の林さんです。」

営業課長「元は製薬会社で営業をしてました。よろしくお願いします。」

社長「総務部長の桜井さんです。」

総務部長「今から (私たちの会社の) 可能性を発揮したいと思います。(柔軟性を表現する前屈をしながら深々と一礼)

社長「この柔軟性で我が社は成り立っています。続いて宣伝部長の阿部さんです。」

宣伝部長 (杖をついて前に進み出て) 「宣伝部長の阿部です。よろしくお願いします。」

社長「子育て支援部長の菅原さんです。」

子育て支援部長「愛情をもって子どもを看ます。皆さん預けてください。」

社長「専属デザイナーの大場さんです。」

専属デザイナー「広告やブログのデザインをしています。よろしくお願いします。」

社長「そして会社の長老で顧問の十二村さん。」

顧問「顧問の十二村です。よろしくお願いします。」

社長「以上8名よろしくお願いします。」

(会社の柔軟性を表す前屈で一同深々と一礼)

営業課長「社長、最後に我が社のキャッチフレーズをお願いします。」

社長「では発表します。(皆で手をつないで) 〈優しい愛情、つながる絆〉。」

(最後にデザイナーの大場さんから)

専属デザイナー「(現在私たちの会社では経理をしてくれる人がいません) 経理のできる人募集中です。」

総務部長「よろしくお願いします。」

(柔軟性の前屈で深々と一礼)



グループゼラニウム

ステップ①「あなたのできること、得意なことは何ですか？」

- ・歌うことと料理
- ・機械いじり
- ・音楽鑑賞
- ・立ち読み
- ・調理が早い
- ・スポーツ
- ・体力系、アクティブ。反対意見を述べる
- ・楽器演奏
- ・ひとつのことに集中すること



ステップ②「自分が地域に関わるとしたら何をしますか？何ができますか？」

- ・ジャズフェスなどのボランティア
- ・地域活動への参加
- ・子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えたい
- ・公園清掃
- ・町内の清掃
- ・手で田植え
- ・スポーツを通じた人の育成、地域再生
- ・料理づくり
- ・市民活動への参加



ステップ③「あなたがしてみたいことは何ですか？」

- ・新しい人と出会って何かを作り上げたい
- ・防犯活動
- ・イベントへの参加、ボランティア
- ・田植えをみんなでやってみたい
- ・地域再生
- ・ライブなどで人集め
- ・世代を超えて外国語を話したい



ステップ④「ステップ①②③をつなげてグループで何かできないだろうか？」

意見をキーワードでくくってみると

- ・音楽
- ・料理
- ・掃除
- ・農業
- ・イベント、ボランティア
- ・スポーツ
- ・PR

これらのキーワードをつなげて具体的に考えてみた

- ・農業（農作業）を経験したあと収穫したものをを使って料理体験
- ・“健康”を考慮して、運動や料理教室を行う
- ・公園を整備してで植物を育てたり、スポーツをしたり、お祭りしたり、イベントをしたり
- ・町内の清掃、住みやすいまちづくり
- ・地域の子供会と協力して登下校時の交通整理をする



テーマを絞る

1. 祭り
2. 健康
3. 農業



「自産自消」(自らつくり 自ら消費する)



CM制作

グループゼラニウムの会社は
食を通じた地域づくりをする会社

会社の名前は「微笑みのテーブルカンパニー」

キャッチフレーズは「野菜をつくる、笑いをつくる、地域をつくる」

【微笑みのテーブルカンパニー】CM

ナレーション

「私たちは微笑みのテーブルカンパニーです。自ら作り、自ら消費する、“自産自消”を合言葉に、食を通じた地域づくりを目指しています。

(農家と社長との交渉の様子：何度も断られながら契約にこぎ着ける。)

社長「私が自ら契約しました。」(ガッツポーズ)

(微笑みのテーブルカンパニーのスタッフは、田植え体験イベントに参加することになる。その当日)

イベント参加者「よろしくお願いします。」

(スタッフは農家の方に教えていただきながら田植えをする。)

ナレーション

「つくった野菜を料理教室でおいしく調理します。今回の調理の先生は石井先生です。」

(料理教室の様子)

料理教室参加者「先生、今日のお献立は何ですか？」

石井先生「はらこ飯です。」

料理教室参加者「先生、使うお米はなんでしたっけ？」

(少し考え込んでから思い出したように)

石井先生「ひとめぼれです。

5月に自分たちで田植えしたひとめぼれを使ったはらこ飯を食べていただいて、宮城県をPRするというのも重要な我が社の売り物です。
それではみなさんと試食してみましょう。みなさんどうぞ。」

(協力してくれた農家の方に石井先生がインタビュー)

石井先生「どうですか、お味は？」

農家の方「自分たちで作ったお米は美味しいですね。」

石井先生「社長いかがですか？」

社長「美味しいものを食べると人は幸せになります。」

(社長前に進み出て)

社長「野菜をつくる。笑顔をつくる。地域をつくる。
私たち微笑みのテーブルカンパニーでは、受け入れ農家と花嫁を募集しています。よろしくお願いします。」

(一同礼)



グループぶどう

ステップ①「あなたのできることで、得意なこと何ですか？」

- ・パソコンに詳しい
- ・物を作ること（電気配線、木工関係、水道配管）
- ・和太鼓
- ・企画力
- ・整理整頓
- ・行動力（思いついたらとりあえず行動）
- ・イラストを描くこと
- ・絵を描いたり作品をつくること（彫刻とか）
- ・いろいろな世代の交流
- ・子どもと遊ぶこと（勉強を見てあげる）
- ・人と話すこと（お年寄りの話を聞いてあげる）

ステップ②「自分が地域に関わるとしたら何をしますか？何ができますか？」

- ・地域や職場のネットワークづくり。情報発信
- ・高齢者に関すること（車の修理、道路の修理、草刈り枝切り、その他いろいろ）
- ・ボランティア
- ・イベントや事業のPR
- ・子育て支援
- ・商店街のポスターのデザインや作成



ステップ③「あなたがしてみたいことは何ですか？」

- ・音楽イベント。親子で楽しめるイベント
- ・演劇、スポーツ、コンサートなどのイベント
- ・自分の住む町の商店街を復活させたい
- ・まちおこしのイベント
- ・スポーツと地域のコラボレーションに参加したい
- ・ワークショップ（美術とか太鼓とか）
- ・様々な動画投稿サイトのイベント
- ・（事業活動を載せてPRしたり意見を得たりする）
- ・広瀬川を活用したイベント
- ・人と人が集まるイベント
- ・若者が主催するイベントで、若者を集める
- ・昔の遊び

ステップ④「ステップ①②③をつなげてグループで何かできないだろうか？」

地域に不足していることは・・・

- ・20～30代で地域の活動に取り組んでくれる人が少ない
- ・地元の商店街に活気が足りない
- ・医療機関の情報発信
- ・近所づきあいがあまりない
- ・幅広い交流ができるようなイベント
- ・子どもと一緒に遊んだり、勉強を教えてくれるボランティア
- ・地域密着の情報が少ない

グループぶどうのキーワード

〈人と人のつながり〉の機会を設ける 〈イベント〉

「若い人たちがどうすれば集まってくるか、お祭りやイベントにどうしたら参加してくれるか？」



大人も子どもも楽しめるイベント

- ・高校生～30代が企業、運営、出資するイベント
- ・音楽が得意な人が多いからそれを利用したイベント
- ・昔あったイベントを復活させる
- ・川を使った遊び
- ・若い人が動いてくれればもっと楽しくなる
- ・若い人はイベントの内容、年配の人は遊びの内容

CM制作

グループぶどうの会社は
それぞれの特技を生かして
人と人がつながるイベントを企画運営する会社

会社の名前は「まちづくりファクトリーぶどう」

キャッチフレーズは「若い人と年配の方をつなげる」

【まちづくりファクトリーぶどう】CM

(近所のAさんとBさんが立ち話をしている)

Aさん「最近、人と人のつながりが薄くなったわよね。」

Bさん「何かやりたいわね。」

Aさん「やりたいよね。」

(そこにCさんが通りかか)

Cさん「何かイベントやるんですか。私、設営やります。」

(さらにDさんが通りかか)

Dさん「何かやるの？私は広告活動ができるわ。」

(Aさん、Bさん、Cさん、Dさん手をつなぐ。
そこに今度はEさんが通りかかっている。)

Eさん「イベントやるの？私はイラスト描けるからポスター作るわ。」

(Eさんも手をつなぐ。その様子を見てFさんが近寄ってくる。)

Fさん「なんか楽しそうなことやるんですか？私は歌が歌いたいのので参加します。」

(Fさんも手をつなぐ。今度はGさんが近づいてくる。)

Gさん「なんか盛りあがってませんか？私、和太鼓やってるんです。」

(Gさんも手をつなぐ。さらにHさんも加わって。)

Hさん「みんな何してるの？イベント？
私はホームページ作ってるんでそれで協力します。」

(つないだ手を結んで輪になろうと手を伸ばすが
なかなか届かず輪になりません。)

ナレーション

「まだまだ輪は完成しません。
この輪の完成にはあなたの力が必要です。
まちづくりファクトリーぶどうでは、私たちの輪に参加して
人と人がつながるイベントを盛り上げてくれる仲間を募集します。」

(みんなで)

「よろしくお願いします。」

(一同礼)



グループだいこん草

ステップ①「あなたのできること、得意なことは何ですか？」

- ・人見知りしないこと
- ・多様な本から必要な情報を抜き出してまとめられる
- ・旅程を立てる
- ・小難しい本を読む
- ・プログラミング
- ・フリーペーパーづくり
- ・手先を使う仕事
- ・バカモノになれる
- ・お年寄りの話し相手



ステップ②「自分が地域に関わるとしたら何をしますか？何ができますか？」

- ・縁を結びたい
- ・ホームページづくり
- ・アンケート集計
- ・パンフレットづくり
- ・傾聴ボランティア
- ・地域の子どもたちに百人一首を教える
- ・防犯関係
- ・イベントに出る



ステップ③「あなたがしてみたいことは何ですか？」

- ・まち歩き。新たな魅力を発見、人と人との交流
- ・お年寄りのための買い物サービス
- ・憩いの場の提供
- ・草抜きボランティア
- ・学生の学びをまちづくりにフィードバック



ステップ④「ステップ①②③をつなげてグループで何かできないだろうか？」

〈キーワード〉

- ・高齢者
- ・学生と高齢者のコラボレーション
- ・日々の暮らしやすさ。憩い



高齢者のために、憩いの場、日々の暮らしやすさを、学生の手伝いでつくっていく。
学生はその体験を自分の学びにフィードバック

実現するためには「足りないものは何か？」「何があったらいいか？」を考えた



- ・サービスのための車、運転手
- ・キッチン
- ・心理カウンセラー
- ・経理
- ・学生と高齢者をつなぐもの、仲介者
- ・学生、若いボランティア



CM 制作

グループだいこん草の会社は
「高齢者が集う憩いの家、24 時間お話し相手になったり、
お買い物やお掃除などの代行サービスを行う会社」

会社の名前は「だいこん草株式会社」

キャッチフレーズは「ほっとひと息 憩いの家」

【ほっとひと息憩いの家 だいこん草株式会社】CM

(女性スタッフ ABC3 人が手をつないで)

スタッフ ABC 「私たちは、ほっとひと息憩いの家です。」

(スタッフ D さん)

D さん 「高齢者はまだまだ先と考えているあなた。
ご夫婦で暮らしていても高齢者になると
『今日は朝から何もしゃべってないわ』ということが
日常になってしまいます。そんなとき憩いの家をご利用ください。」

(スタッフ E さん)

E さん 「買い物の代行サービスも行っています。」

(スタッフ F さん)

F さん 「清掃などのサービスも行っています。」

(再びスタッフ D さん登場)

D さん 「イケメンの若手男性スタッフがお手伝いします。」

(男性スタッフ ポーズ)

(スタッフ全員そろって)

全員で「皆様のご利用をお待ちしています。」

(一同礼)



サプライズ

グループだいこん草の参加者と
東北学院大学柳井ゼミの学生で即席のグループが出来上がりました。

- ・退屈人「おっ困ってる人がいるぞ。糸も切れかかっているな。私が新しく結びつけよう。結び達人だ。」
- ・ナレーション「私たちは〈困っている人の糸〉と〈困っている人の糸〉を結び付ける会社です。
私たちは〈探します〉〈結びます〉〈いっぱいにします〉をモットーに仕事を頑張ってます。」
- ・糸ハンター「もう私たちだけじゃ仙台市を守れないよ。」
- ・退屈人「俺のマントも穴が開いてきたしなあ。どうしよう。」
- ・糸ハンター・退屈人「私たちとっしょに、糸を結んでくれる人募集中です。よろしくお願いします。」



参加者感想

グループぶどう (佐藤さん)



かなりの無茶ぶりで CM まで作ると思ってもみなかったのですが、会って 2 日目でもできないことはないんだなと思いました。
これだけのメンバーでも特技を持った人が多くいて何か活動ができるのではないかとそんなエネルギーを感じた。

グループゼラニウム (菊池さん)



2 日間にわたり行動をとともにして勉強させていただいた。特に 2 日目のパフォーマンスは戸惑いもあったが、皆さんそれぞれの役割をこなす楽しかった。

グループききょう (十二村さん)



今回のようなつながりをもっと広がってほしい。それが市民力ではないか？
仙台市にも今後このような市民力の PR をよろしくお願いします。

グループだいこん草 (今井さん)



4 箇所のフィールドを回っている間は、これが何になるのかわからなかった。フィールド活動のまとめを聞いて、自分たちがやっていたことが分かった。
2 日間にわたり年齢や性別も異なるメンバーいろんな所を歩いて、いろんなことを話していくうちに、それぞれの方の特技や得意な分野などが分かり、人と人がつながって、そこからエネルギーが生まれ、そこからたくさん可能性が広がって行く。それが市民力なのではないかと感じた。

講評



東北学院大学教授 柳井 雅也さん
[全体会総合ファシリテーター]

地域づくりは人づくりに始まり人づくりに終わります。

今までの地域づくりはどちらかといえば箱モノ中心でしたが、これからは人をどのようにつくっていくのか、そのための支援体制をどうつくっていくのか、それが大切だということを今回のワークショップを通して感じました。

自覚的に生きる市民が集まっている仙台市というものを今後どのようにつくっていくかが仙台市としての向上にもつながっていくのではないのでしょうか。

行政に求めるだけでなく、行政に働きかけ、一緒に動かしていくような市民と行政の関係性の変化も今後はもっともっと必要になってきます。地域の未来は市民みんなのものです。課題としては、今回のワークショップには 30 代 40 代の参加が (他の年代に比べてあまり) 得られなかったことから、子どもや子育てという側面から 30 代 40 代の方々の意見を引き出すなど全ての世代の意見を集める体制づくりも必要ではないかと感じました。

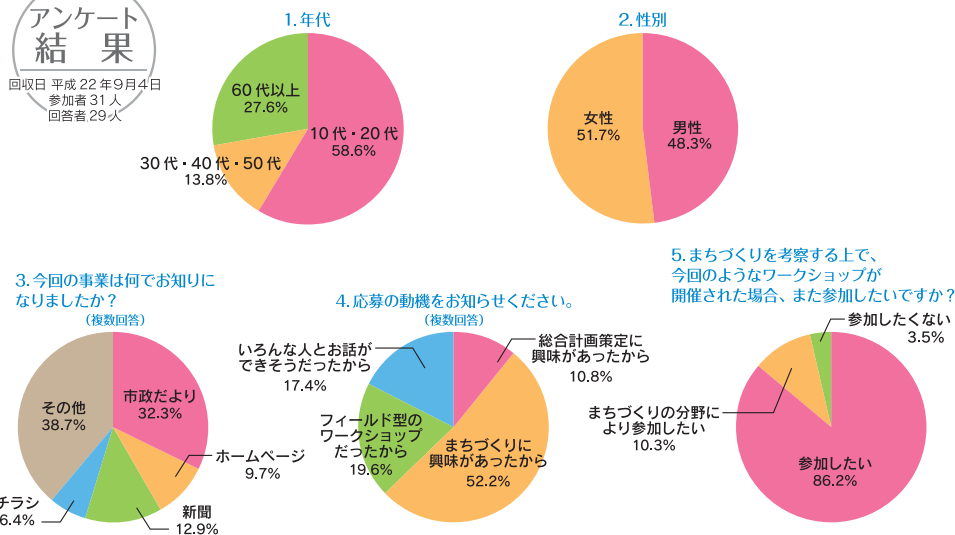
今回の 2 日間の「まち歩きフィールドCafé」、ここを市民力づくりのスタートにしていきましょう。

まち歩きフィールドCaféへのご意見

- すごく濃い 2 日間でした!! 様々な年代の方と交流ができて、面白かったです。
- 名前の Café の要素は? こういう機会をもっと増やしてもらいたい。参加してみたら、もっとまちづくりに興味を持ちました!
- 普段訪れる場所であっても、職員、関係者の方から話を聞いて初めて知ることが多く、仙台というまちは自分が考えていた以上に魅力的な都市だと感じた。仙台市民がもっとこのような情報を知って、仙台を好きになる取組みがあればよいと思う。
- 1 回 1 回の訪問時間が短くて、やや消化不良な面があった。いざという時の人のエネルギーを感じた (笑)。
- とても楽しかったです。普段ではあまり接するものことのない世代や職業の方々とお話することができて良い体験となりました。" 自産自消 " から、料理教室で教えて頂いたものを家庭でつくったり、高齢者や子どもたちと一緒に食べて食地域名産にする。そこから地域が一体となり、防犯や虐待の防止にもつながるのではないかと個人的には考えています。もっともっと仙台市について知りたいなあと思いました。
- 新たな人とつながりを得て楽しかった。
- 自分の知識を深められました。これから、この学んだことを大学生活に活かしていきたいです。
- 様々な人と話すことができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、CM を通して Group の方々と仲良くなることができました。
- 自分が、いかにこの地域のことを知らないか、知る良い機会になりました。また、幅広い年齢層の方々との議論でき、貴重な体験でした。どうもありがとうございました。
- もともと人と話したりすることに消極的でしたが、思い切って参加してみました。意見を言うのは緊張しましたが、共感してもらったり反映されたことがすごくうれしかったです。感動でいっぱい 2 日間でした。
- なかなか課題が難しいと感じたが、終わってみると楽しかったです。
- 新たな仙台の魅力 (宝) と、問題点、改善点に気づくことができました。気づいただけでなく、意見を出し合い提案することで自分もまちづくりに関っている認識が持てました。とても良い勉強になりました!!
- 様々な年代の方達とまちづくりに関して議論ができたのでとても良かったです。また、このような機会が増えれば良いと思います。
- ボランティアに関連している事柄をいくつか発見した。仙台駅から徒歩で行く施設への距離は遠く、タクシーを使用するには高価と感じます。
- 市民自らが参加し、意欲的に発言する場が良かったです。今後も是非継続してほしい企画だと感じます。
- 市民の力を取り入れていくという方向性は大変良いことだと思いました。
- 参考にはなったが、現実問題として自分が何をすべきかはむずかしい。
- 参加してみると、結構お金がかかっている! など思った。資料を入れる袋 (手下 (提) げ)、バインダー、パス代、飲み物、昼食 2 日分なので、それに対する物を参加者に期待していたのかと不安になった! 私はそれには応えられませんよ! 今後は市の企画した物に参加する時には、よく熟読してからにしようと思った。→ 最後 (午後の部)、グループ CM をみて、上記の事がふつよく (払拭) しました!
- 観光、農業、製造業 etc. に分野別に実施すればもっと良い意見が出るのではないかと思います。
- 自分も勉強になりました、ありがとうございました。
- (「まち歩きフィールドCafé」は) 今回の初回なのでしようか。参加してとてもよかったと思っております。
- 市民に関心を持ってもらうという上で、広報活動を積極的に実施する必要があると思います。今回の参加者は学生さん達が多く散見されたが、情報 (開催等) 入手し易いのが我々。
- 仙台市に住んでいても、全然知らないという人と初めて知らされました。これからもこのような機会があれば、また、参加したいと思います。ありがとうございました。
- 今後共によりしくお願いします。市民である以上、みなさんががんばりましょう。
- 4 箇所歩く間はこんなこと何の役に立つのかと思うだけだった。増田先生のスクリーンに映してのまとめを聞いた。へーこんな立派なこと私たちがしたんだ、学会に参加した気分、ととても満足を感じた。

アンケート結果

回収日 平成 22 年 9 月 4 日
参加者 31 人
回答者 29 人



活動の様子を発表しました

まちづくり市民フォーラム ～語ろう、生かそう、仙台の市民力～

平成22年10月10日(日)に、せんだいメディアテークで開催された「まちづくり市民フォーラム」で、参加者を代表してグループゼラニウムの松さゆりさんが活動報告を行いました。

私が、このグループ考察・活動の時間に感じたことは、お会いして2日しか経ってない人たち、また年代も職業も全く異なる人たちが集まって、限られた時間の中でひとつの結果を出すために協力し合い、チームワークをつくることができるんだという驚きと喜びでした。これこそ、まさに市民力、人間力なのではないかと感じました。この2日間で回った全てのフィールドで、すごいパワーの市民力を感じることができ、また、自分たちも生活する上で自然にまちづくりと関わっているんだという意識も芽生えました。



仙台市総合計画審議会

第3回仙台市総合計画審議会「都市の魅力部会」(平成22年10月25日(月)仙台市役所第2委員会室で開催)及び「市民の暮らし部会」(平成22年10月26日(火)仙台市役所第4委員会室で開催)にて活動報告を行いました。

○都市の魅力部会



グループだいこん草の北波克彦さん

4つのフィールドにはそれぞれの特徴があり、これらのフィールドの「現在」という横軸と各フィールドの持っている「歴史」という縦軸の糸で仙台を「縁」でつなぎたい。



グループぶどうの南部陽菜さん

訪問したフィールドの現在の姿を見ると活動が活発な分、自分にとっては遠い存在に思えたが、元をたどると自分たちにできることが起点となっていることが発見だった。いろいろな年代の市民の「何かしたい」という気持ちを実行に移せるように、そっと背中を押してあげる環境を作っていくことが必要だと思います。

○市民の暮らし部会

グループぶどうの宮本浩さん

人と人をつなぐ(いろいろな年代の方々がまちづくりに参加できる)イベントをするときは人も大切だが、表現できる場所が必要だと思う。空き倉庫や、地下鉄の地下道なども考え方ではもっとよく使うことができると思う。総合計画策定のための参画事業ということで参加したが、いろいろな年代の人とお話し合い、考えることのおもしろさを感じたし、(市民は)言わないだけで、いろんな考えをもっているとも感じたので、もっと市民の意見を聞いて反映させてほしい。それがフィールドのため、市民のため、仙台のためになる。



グループききょうの林慎吾さん

年代、業種の違う方々とのフェーストゥフェースのコミュニケーションの大切さを感じた。世代間で課題となっていることに違いがあり、ベクトルをどのように合わせていくかが難しいとも思った。参加してみて「自分も市民力を持っている」「個々の市民力を組み合わせて様々なことができる」ということに気付いたし、「まちCafé」は、「既に発揮されている市民力があることを知り、実際に見て体験できる気付きの場」であった。



ファシリテーターをした審議会委員から、「短い時間の中での体験でどれだけのものを市民の方に持ち帰ってもらえるか、ファシリテートする者として苦労したが、発表を聞いてよかったと思った。」との感想が述べられたり、「フィールドでの活動のエネルギーの根拠は何だと感じましたか。」との審議会委員からの質問に、「それぞれの活動は自分のできること、したいことから始めているので、実践者の方々は活動に誇りを持っており、それがエネルギーの源になっていると感じました。」と報告者が答えるなど意見の交換も行われました。